

## UWC 常熟校 (UWC Changshu China) 視察報告 (概要)

日時：2015年12月11日(金) 11:30～16:00

場所：UWC 常熟校 (UWC Changshu、江蘇州、中華人民共和国)

出張者：高野雅永 UWC 日本卒業生会、長谷川知子 UWC 日本協会事務局長

### 1. 立地

(1) 常熟市は上海から1時間半～2時間くらいの位置する150万人くらいの県級市である。紡績、機械、ITなどが主要産業で、日本企業も多く進出している。化学や鉄鋼などの重工業の工場などはないとのこと。もともと、常熟は呉の国が興った所で、古来、棋琴書画が盛んな文化圏だった。今でも、市民のモラルも高く、落し物もきちんと届けられるほか、経済的にも裕福なので、治安も問題ないとのこと。また日本企業の進出に加え、イオンモールの盛況ぶりや日本食レストランも多いことなどを鑑みると、反日感情も限定的と思われる。ちなみに日本食のレベルは東京の居酒屋と同じくらいの値段で、十分、満足できる食事が提供されていた。

(2) 唯一、気になる点は、大気汚染である。たまたま天候が良くない時に訪問したこともあり、空は曇っていて、空気も霞んでいる状態が続いていた。ただ、学校内では健康被害あるいはその予兆もないようであるし、来年には学校に医師も常勤となるので、十分な配慮はあると判断しても良いと思われる。

【UWC 日本卒業生会/高野】

(3) 常熟市は、上海浦東国際空港から車で2時間ぐらいに位置する。上海から常熟市に近づくにつれ、樹木の緑が多くなるのがわかる。日本企業の進出も多いことから、市内には日本人会もあり、日本食レストランも多い。

(4) UWC 常熟校は常熟市内から公共バスで10～15分ほど、湖に隣接している(常熟市には湖が多いことから東洋のベニスとも呼ばれている)。学校の近辺には何もないが常熟市内へは公共バスが20分間隔で利用可能。

(5) 天気が悪かったせいもあり、空は曇っていたが、一時、青空も見られた。大気汚染の程度はわからないが、街中でマスクをしている人は見かけなかった。常熟校には、最新の空気清浄機も備えられている。

【UWC 日本協会/長谷川】



常熟市のホテルから一時のぞいた  
青空

## 2. カレッジの施設

(1) UWC 常熟校はご子息をピアソン・カレッジ（カナダ）に送った常熟市の市長の全面的なバックアップにより、学校のハードの充実ぶりは既存のUWCを大きく凌ぐものといえよう。高校というよりも贅沢な小規模大学といった印象だった。

(2) すり鉢状の映画館のような大規模劇場と、照明音響設備の整った中規模のスタ



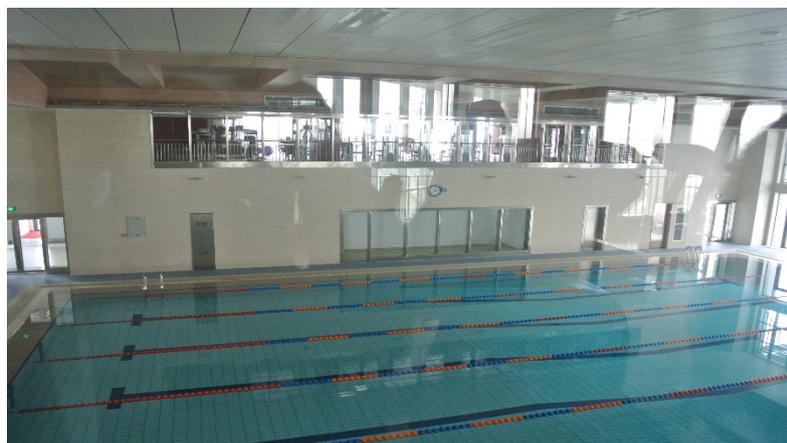
タジオとシアターが2つ、体育館、ジム、室内温水プール、テニス・コート、バスケット・コート、陸上競技のトラック、サッカー場、最新設備の図書館、多くの音楽やアートの個別教室、と設備は完備されている。寮の部屋もかなりの大きさで、各人のデスクも備え付けとなっている。

カフェテリア方式の食堂も、ベジタリアンの選択もあり、味も良くも、ボリュームも十分だった。

【UWC 日本卒業生会/高野】

上：図書館、学習スペースも完備

右：室内温水プール。  
二階にはトレーニング・ジム



(3) UWC 常熟校の土地は常熟市より無償提供され、学校施設も全て常熟市が建設したもので、高校というよりは大学の施設を思わせる。現在は生徒がディプロマ (DP) 課程 1 年生とプリ DP 課程 (DP 課程の 1 年前から始まるプログラム) 1 年生しか在学



していないこともあり、施設の広さゆえに閑散とした雰囲気があった。開校したばかりで、まだ多くの教室は未使用で、荷物置き場になっていた。

(4) 寮は 3 名～4 名が 1 部屋をシェアしており、内一人が地元の中国人

になるように部屋割りされている。図書館、温水プールやトレーニング用のジム、テニス・コート、バスケット・コートなどが完備されているが、視察時は授業時間中であったこともあり、卓球を楽しむ生徒以外は見当たらなかった。

上：常熟校全体の模型  
右：中庭から校舎 (左) と寮 (右) をのぞむ



(5) 医療体制としては、現在、看護婦が 1 名常駐しているが、中国の法律の規定により近く医師 1 名も常駐する予定。

【UWC 日本協会/長谷川】

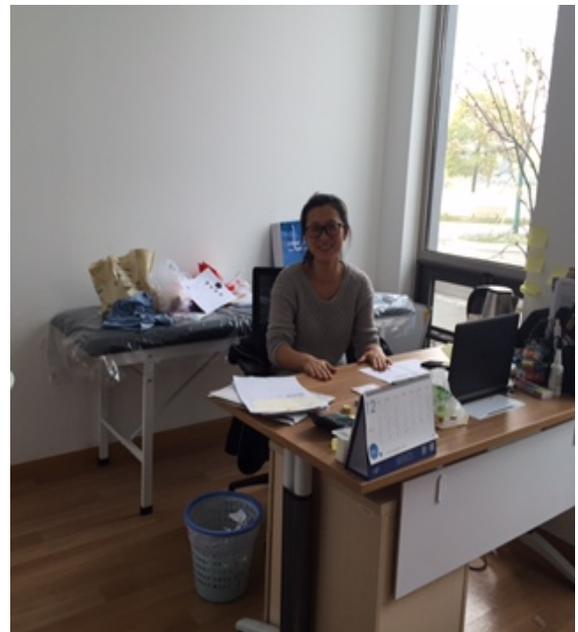


テニス・コート、奥には湖が見える



カフェテリア。幾つかのメニューから選べる

クリニックに常駐している看護婦。  
近く、医師も常駐する予定



### 3. 教育カリキュラム、教員、スタッフ

(1) 常熟校の教師、スタッフの多くは、UWC 出身・経験者あるいは他の IB スクールから

リクルートされた人材で占められていて、IB のカリキュラムだけでなく、UWC のミッションも十分に共有されている。校内では、インターネットなどからの情報収集に関する制約などはなく、ソフト面の環境に問題はない。



理科室には最新の設備がそろっている

(2) 1年後には、11, 12年生が各200人、10年生が100名の全体で500名の規模となる予定だが、生徒/教員比率は1/10を維持するとのことで、教師も約50人という規模感の学校となる。そうなることと課目数や、レベル別のクラス編成などといったアカデミック面の質・量ともに、2016来年度以降、一段と充実していくと予想される。

(3) IBプログラムの一環となっているCASは、Zhi Xing（知行）と呼ばれ、球技やクライミングなどのActivity（体育系）、アートや音楽などのCreativity（インドア系）、Environmental（環境）とCommunity（社会奉仕）を軸としたサービス活動の4つに大別されて、専門のスタッフがそのプログラムの拡充を担当している。

【UWC卒業生会/高野】

#### 4. 結論

(1) UWC 常熟校は設備、教員、スタッフ等の面では申し分ない。大気汚染などの環境



正門前には松が植わっているほか、中庭には桜の木もある

面は、中国全体の問題として懸念は残るが、常熟校において特に問題が表面化していることはない。

(2) 日本協会としても、カレッジ奨学金も一部、支給されることもあり、生徒を派遣する方向で検討したい。

以上